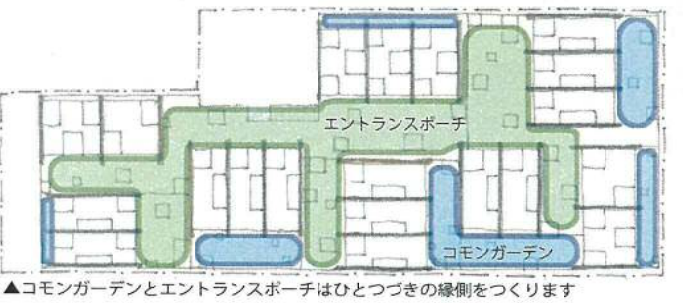
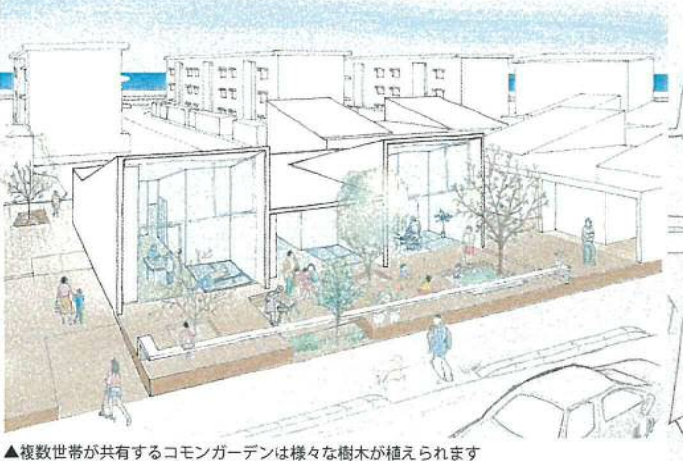


# 大きなひとつづきの縁側が誘うコミュニティづくり

- 私たちの提案は、「ひとつ屋根の下の家族」ならぬ「ひとつ縁側に寄り添った大きな家族」づくりです。
- 20戸を8棟に編成し、各棟の周りを巡るように縁側（木製デッキ）が敷地全体に広がっています。
- この大きな縁側には、心地よい木陰や木漏れ日、季節折々の花や実、やわらかな風を創る様々な樹木が植えられ、自然豊かな住民共有のコミュニティ空間を彩ります。

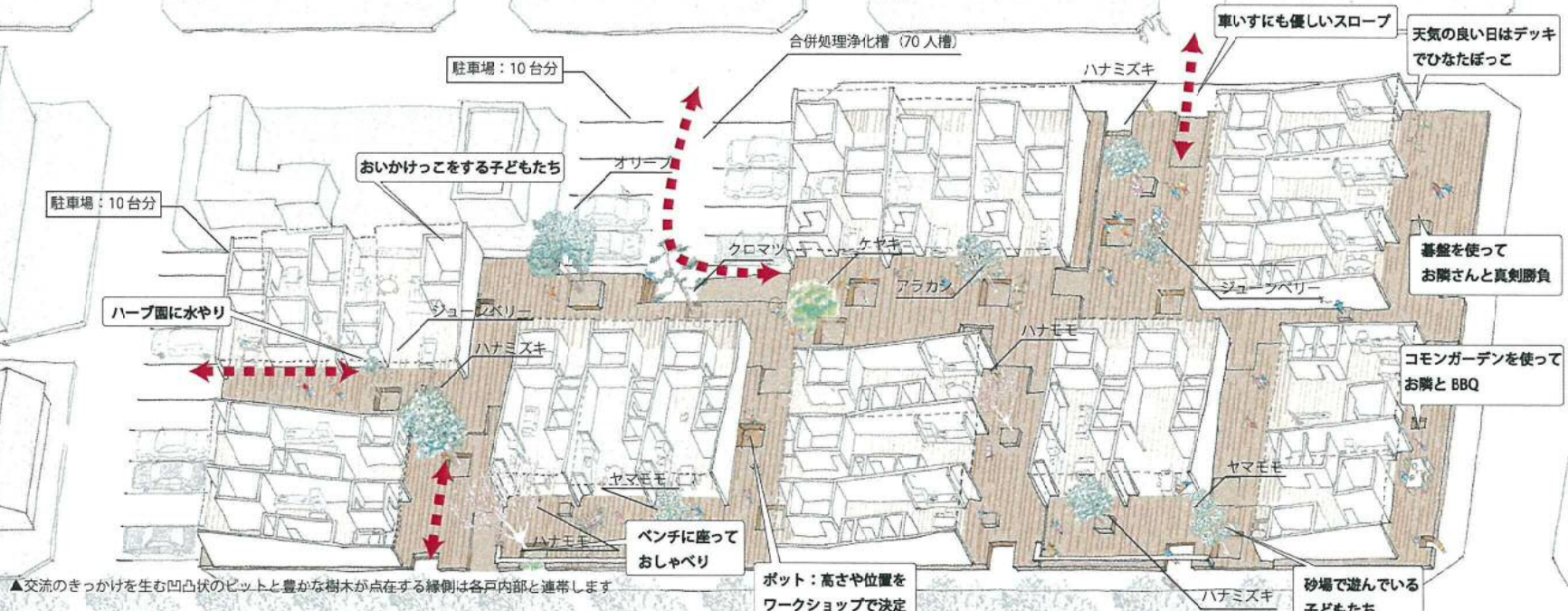
## 様々なコミュニティ形成の舞台が縁側上に展開します

- ・ひとつづきの大きな縁側は、8棟の建築の配置によって幾種かのふくらみや、高さの変化が与えられて様々なコミュニティ形成に寄与します。
- ・複数棟が共有するエントランスポーチでは、ベンチに座っての井戸端会議や、砂場、囲碁勝負、日向ぼっこをする風景が広がります。
- ・一方で、複数住戸で共有するコモンガーデンでは、家庭菜園や隣家どうしでのBBQ大会によって世帯間どうしの交流の場となるでしょう。
- ・さらに、縁側のあちこちに木漏れ日や木陰、そよ風や季節を感じさせる樹木を、住民の方々とのワークショップによって選定し植樹位置を決めることで、自環境豊かな共有の空間づくりがかなえられます。
- ・様々な特徴をもつ縁側は、常に20世帯で子供の遊びを見守って、子育て世帯にとっての安心安全な生活の場となり、また若い世代が集う趣味空間となります。



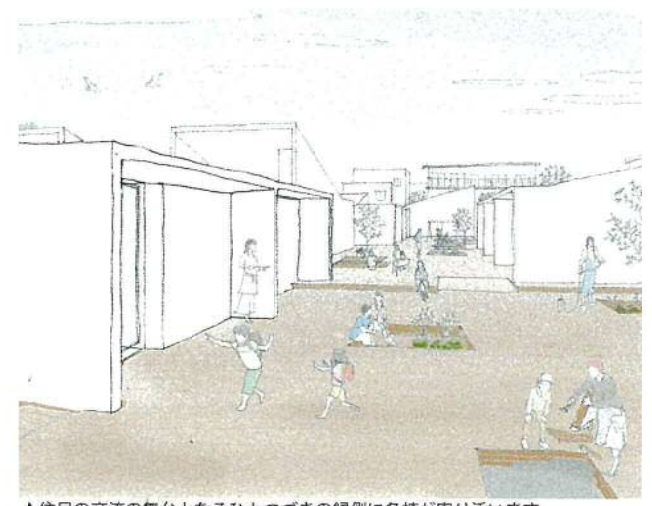
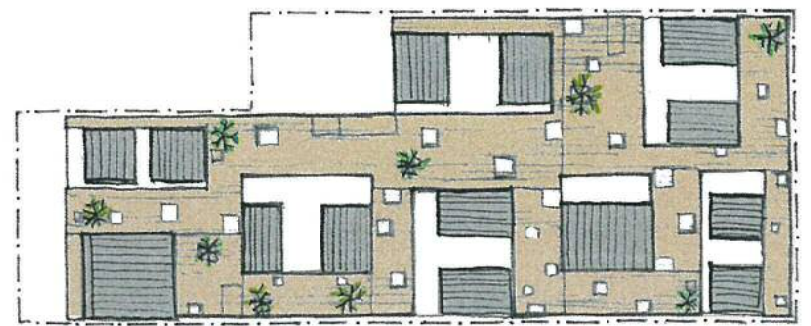
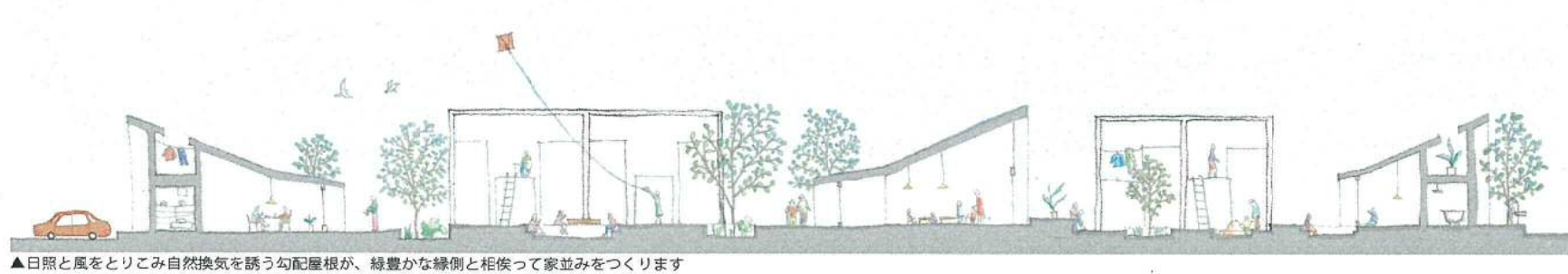
## 既存周辺環境を意識した配棟計画が、団地全体のコミュニティ空間づくりに寄与します

- ・現状の河和住宅のエリアには大規模な集合住宅棟と小規模な戸建て住宅（私有地）が混在しています。
- ・新しい20戸は2〜3戸を1棟に束ね、全8棟を離散的に配置することで、大小両規模の性格が混ざり合うような佇まいを創りだします。
- ・各棟の屋根はリズムカルに分節されているため、集合住宅でありながら戸建住宅のような家並みを醸し出します。
- ・各棟の間の緑豊かで温もりある木製の縁側空間は、20世帯の親密な関係を紡ぐ場になると共に、周辺にも開かれたふくらみも設け、団地住民のみなさんの小公園のようなコミュニティ空間となることを目指します。
- ・縁側上にはベンチやテーブル、砂場やハーブ園にもなる凸凹状ピットを配置し、これらを職人の方々や住民の方々とのワークショップによって造りこんでいくことで、維持管理への共有意識の芽生えにも寄与します。



## 木造のモジュールを活かした住戸内空間は、縁側と密接に連携します

- ・各住戸は1.5間から3間といった木造ならではのヒューマンスケールによるモジュールで構成されます。
- ・水回りや個室を耐震コアにして、在来木造の架構形式を採用することで、地域の職人のみなさんの力を借りつつ、コアの配置パターンによって様々な住空間のバリエーションを可能とします。
- ・日照や自然換気を誘う勾配屋根により、自然エネルギーを有効活用した快適な室内環境を形成します。
- ・各棟の屋根は同一のモチーフを持ちつつ様々な方向に向かうため、団地内に画一的にならない佇まいを与えます。
- ・こうして各戸の室内レイアウトや各棟の配置に一定のルールと自由度を与えながら、縁側によって一体感を形成する空間は、3期にわたる段階建設にもフレキシブルに対応することが可能となります。



## バリアフリーな縁側は、老若男女が使用できるコミュニティ空間となります

- ・各住戸とその近傍の縁側はもちろん、隣り合う縁側どうしもバリアフリーで連続しているため、誰しもに平時の行き来を可能にします。
- ・警報設備に頼るのではなく、近隣の住民同士の間によって見守り、住戸のセキュリティを保ちます。
- ・日常的に住民間のコミュニティ舞台として利用する縁側は、自然災害などの有事においても多方向からの避難誘導を可能とし、円滑な互助活動を支えます。

